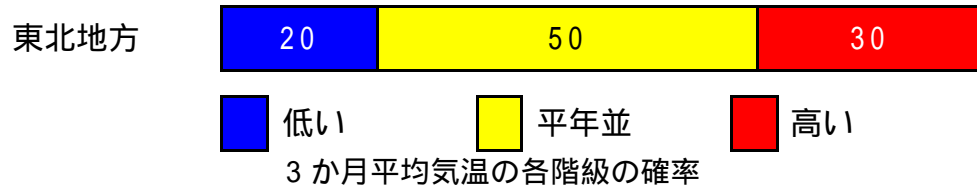


# 東北地方 3 か月予報（5～7 月）の解説

平成 13 年 4 月 23 日 仙台管区气象台

## 1. 予想される天候

（1）3 か月平均気温の予想される各階級の確率（％）



〔概要〕

5～7 月の 3 か月平均気温は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。「高い」の可能性が次に大きく、その確率は 30％です。「低い」の可能性は小さく、その確率は 20％です。

（2）可能性の大きな天候の特徴

5 月：高気圧と低気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変化するでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。東北地方では、おそ霜の恐れがあります。

気温、降水量共に平年並でしょう。

6 月：天気は概ね周期的に変化しますが、梅雨前線やオホーツク海高気圧の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多く、一時気温が低くなることもあるでしょう。

気温、降水量共に平年並でしょう。

7 月：梅雨前線やオホーツク海高気圧の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多く、一時気温が低くなることもあるでしょう。その後は、太平洋高気圧に覆われて気温の高い日がある見込みです。

気温、降水量共に平年並でしょう。

なお、5～7 月の 3 か月間の降水量は平年並でしょう。

## 2. 前回（3 月 21 日）発表の 3 か月予報からの変更点

なし

< 参考資料 >

平年のおおよその天気出現日数（日）

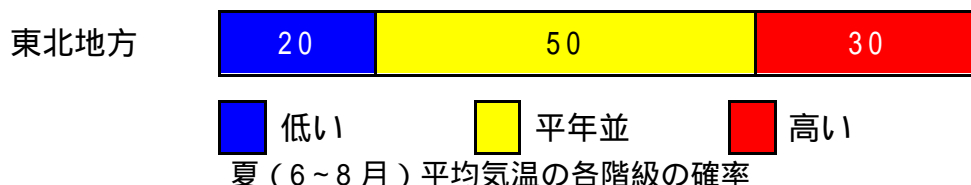
	5 月		6 月		7 月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	18	18	14	12	15	13
雨の日	10	9	10	10	11	11

注：季節予報では、「日照率 40％以上の日数」、「日降水量 1mm 以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安として用いている。この 2 つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。なお、日照率は 1 日の日照時間を可照時間（太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間）で割った値である。

### 3. 暖候期の天気見通し(6～8月)

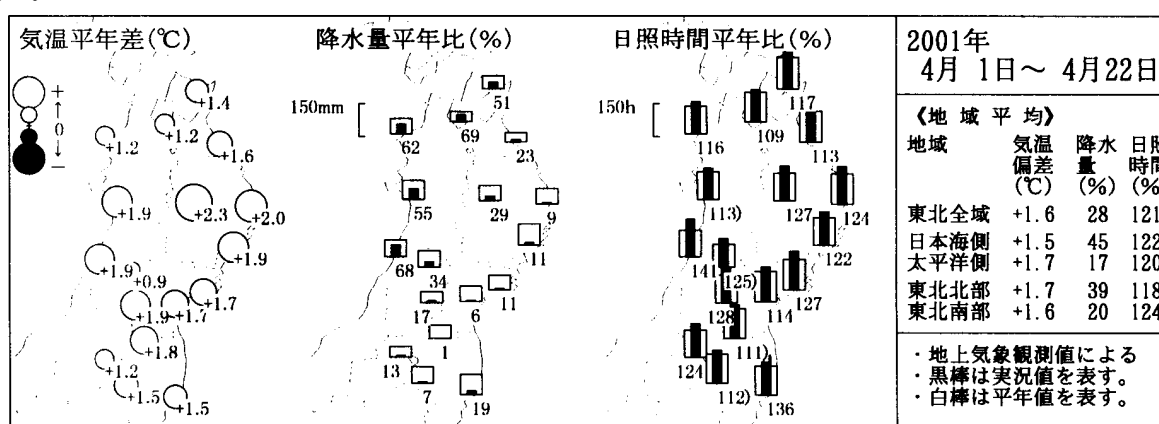
3月から4月前半の天気経過をふまえ暖候期の天気について検討しましたが、3月12日に発表した暖候期予報の内容に変更はありません。

(1) 夏(6～8月)平均気温の予想される各階級の確率(%)



### 4. 最近の天気経過と循環場の特徴

(1) 最近の天気経過



東北地方における4月(1～22日まで)の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)

4月(22日まで): この期間の平均気温平年差は、東北地方で+1.6 と平年を上回ったが、期間のはじめと終わりには平年を下回るなど変動は大きかった。降水量平年比は、東北地方で28%と平年を下回った。日照時間平年比は、東北地方で121%と平年を上回った。

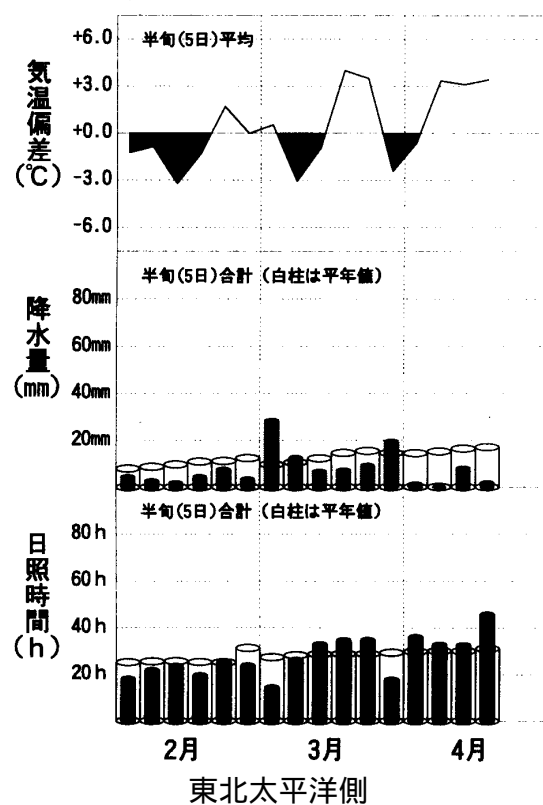
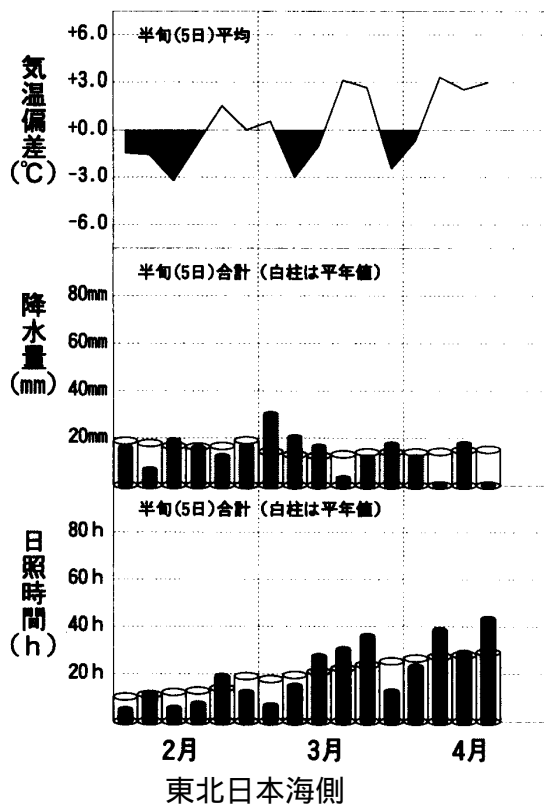
上旬は、はじめ寒気の影響で東北日本海側は曇りや雨または雪の日があったが、東北太平洋側は概ね晴れた。その後は、日本の東海上に中心をもつ高気圧に覆われ、東北地方は晴れて気温の高い日が続いた。東北太平洋側では湿った東風の影響で朝晩は霧が発生する日もあり、高速道路の一時閉鎖や航空機の欠航などの交通障害が発生した。

上旬の平均気温平年差は、東北地方で+1.3 と高かった。降水量平年比は、東北地方で20%とかなり少なかった。日照時間平年比は、東北北部で97%と平年並、東北南部で130%とかなり多かった。

中旬は、寒冷前線や南岸低気圧の影響で東北日本海側を中心に雨となる日もあったが、移動性高気圧に覆われる日が多く、概ね晴れて気温の高い日が続いた。しかし、東北太平洋側では湿った東風の影響で朝晩は霧が発生する日もあり、高速道路の一時閉鎖や航空機の欠航などの交通障害が発生した。また、期間を通して東北太平洋側を中心に降水量が少なく、空気が乾燥して、18日には青森県や岩手県で山林火災が発生した。

中旬の平均気温平年差は、東北地方で+3.2 とかなり高かった。降水量平年比は、東北地方で41%と少なかった。日照時間平年比は、東北地方で128%と多かった。

下旬(22日まで)は、南岸低気圧や寒気の影響を受け曇りで雨や雪となる所もあったが、移動性高気圧の覆われ晴れる所が多かった。

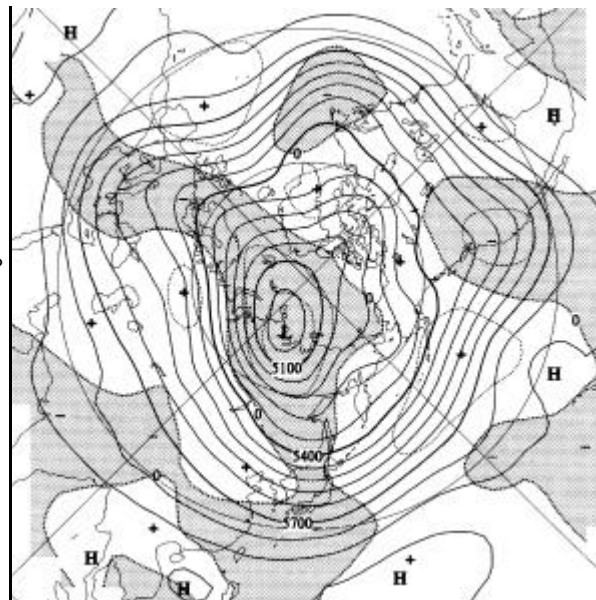


半旬経過図

## (2) 中・高緯度の循環

4月(22日まで): 500hPa 高度場では、極渦がタイミル半島付近にあって極付近を含む高緯度は負偏差域となり、寒気が停滞していた。また、日本付近の大気の流れは蛇行が少なく、極付近の寒気は南下しにくかった。このため、東北地方は弱い負偏差に覆われたが、南西諸島を除いた日本域では平年より高温となった。

低気圧は、北海道やサハリン付近を通過することが多く、低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込みやすかった。また、本州付近は高気圧に覆われて晴れる日が多く、気温が高くなった。



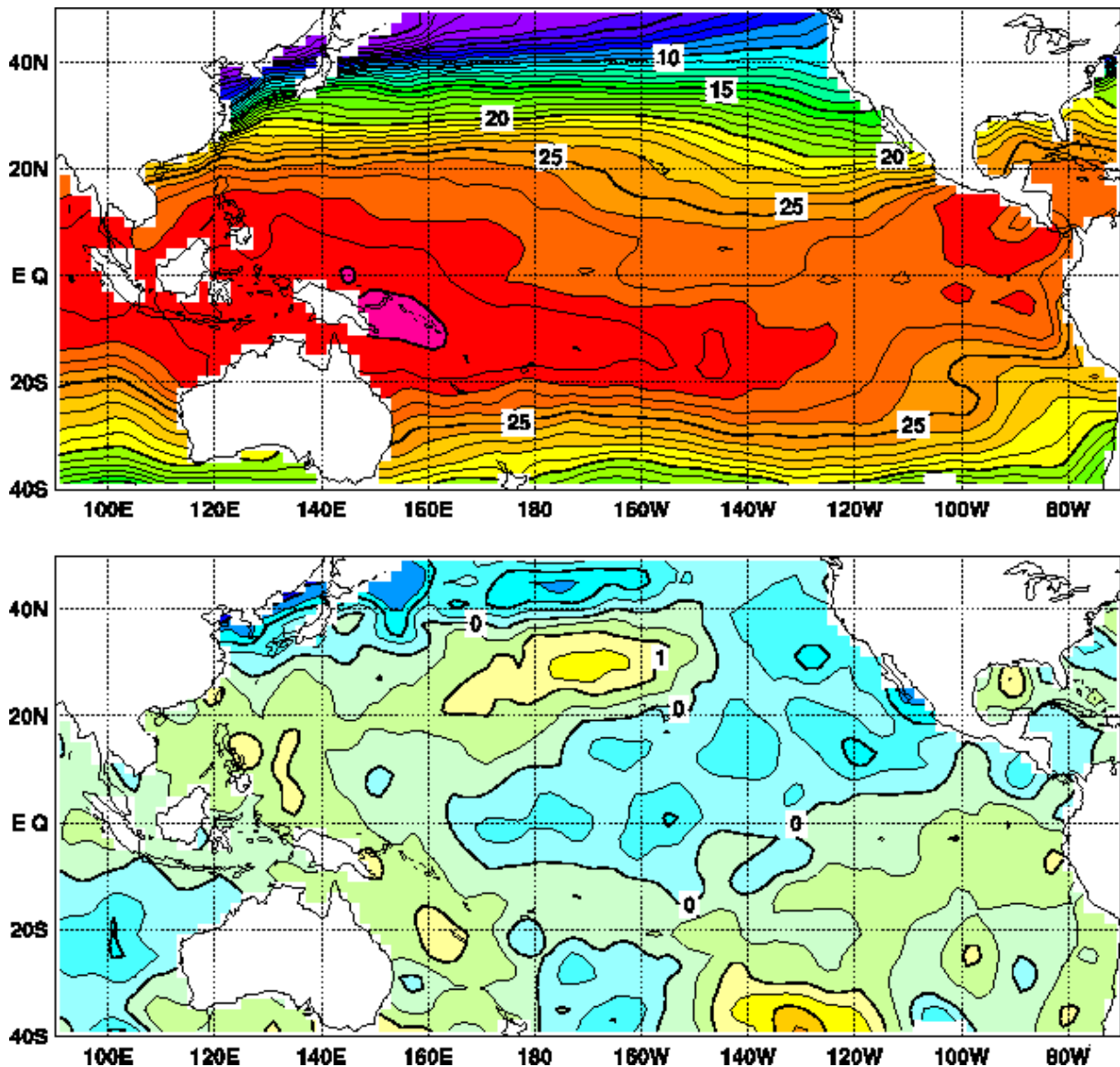
4月1~22日平均 500hPa 天気図  
等高度線間隔 60m  
陰影部は平年より高度が低い領域

### (3) 熱帯太平洋の状況

エルニーニョ監視海域（北緯4度～南緯4度、西経150度～西経90度）の3月の海面水温の基準値（1961～1990年の30年平均値）との差は+0.4 で、2000年4月以来初めて正の値になった。

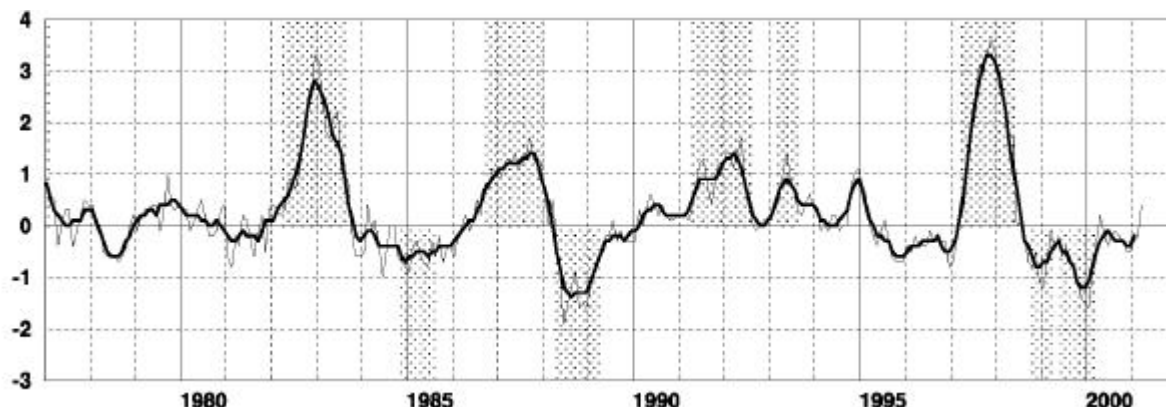
3月の太平洋赤道域の海面水温は、東経165度から西経130度にかけて平年より低く、東経170度から西経170度と西経165度から西経150度には-0.5 以下の負偏差が見られた。一方、東経130度から東経150度と西経110度から西経85度では平年より0.5 以上高かった。

3月の南方振動指数は+0.8（暫定値）であった。（南方振動指数は貿易風の強さの目安であり、正（負）の値は貿易風が強（弱）いことを示す。）



2001年3月の海面水温図（上）及び平年偏差図（下）

海面水温図の太線は5 毎、細線は1 毎の、平年偏差図の太線は1 毎、細線は0.5 毎の等値線を示す。海面水温図の陰影部は28 以上の領域を、偏差図の濃い（淡い）陰影部は+1（-1）以上の正偏差域（0 以下の負偏差域）を示す（平年値は1971～2000年の30年平均値）。



エルニーニョ監視海域の月平均海面水温の基準値との差（ ）の推移  
(1977年1月～2001年3月)

折線は月平均値、滑らかな太線は5か月移動平均値を示し、正の値は基準値より高いことを示す。エルニーニョ現象の発生期間は上側に、ラニーニャ現象の発生期間は下側に、それぞれ陰影を施してある(基準値は1961～90年の30年平均値)。

#### (4) エルニーニョ現象等の今後の見通し(2001年4月～2001年10月)

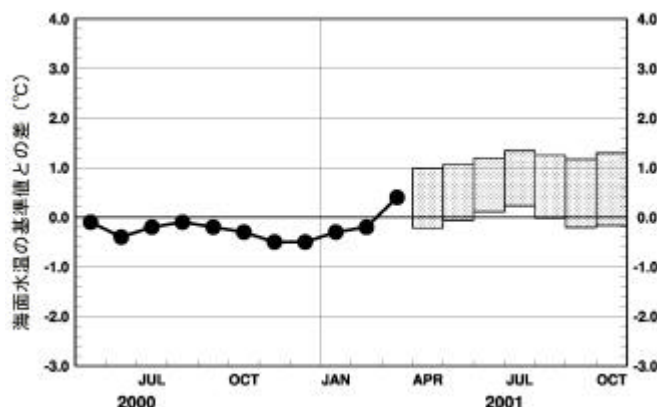
エルニーニョ監視海域の海面水温は、予測期間中、基準値(1961～1990年の30年平均値)よりやや高い状態で推移するものと予測される。

#### 【解説】

エルニーニョ監視海域の海面水温は、基準値との差が+0.4 となり、2000年4月以来初めて基準値を上回った。また、赤道に沿った海面から深度260mまでの平均水温平年偏差の経度-時間断面図では正偏差域が急速に東方へ広がっているのが見られる。しかし、南方振動指数は+0.8(暫定値)と依然正の値を維持しており、太平洋赤道域東部の水温も30m以深では平年より低い。以上の事実は、太平洋赤道域の大気・海洋が1998年秋以降続いていたラニーニャ現象あるいはそれに近い状態から、逆の状態へ移行する過渡期にあることを示している。

エルニーニョ予測モデルは、監視海域の海面水温が今後も3月のように基準値よりやや高い状態で推移すると予測している(右図)。

これらのことから、エルニーニョ監視海域の海面水温は、今後、基準値よりやや高い状態で推移するものと予測される。しかし、予測期間中にエルニーニョ現象が発生するかどうかについては、今後の推移を注意深く監視し、判断する必要がある。



エルニーニョ予測モデルによる

エルニーニョ監視海域の海面水温偏差予測  
この図は、エルニーニョ監視海域の海面水温(基準値との差)の先月までの推移(折れ線グラフ)とエルニーニョ予測モデルから得られた今後の予測(ボックス)を示している。各月のボックスは、海面水温の基準値との差が70%の確率で入る範囲を示す。

(基準値は1961～1990年の30年平均値)